

平成二十八年度富山県立大学入学式式辞

平成二十八年四月六日（水）

アイザック 小杉文化ホール ラポール

334名の新入生の皆さん、そして、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。私たち教職員は、心から皆さんのご入学を歓迎いたします。

また、本日は、石井富山県知事をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。心からお礼を申し上げます。

まず、学部新入生の皆さんにお話しします。

皆さんは、高い競争倍率の本学入学試験に見事合格し、めでたく本日の入学式を迎えられました。こうして選ばれた皆さんは、自ら研鑽に励み、地域、そして我が国の発展を担う人財として立派に成長し、社会に貢献することが期待されています。

この富山県立大学は、人間性豊かで創造力を備え、社会に貢献する有為な人材を育成するとともに、学術と産業との有機的連携を進め、もって地域及び社会の発展に貢献することを目的に設立された、創設から27年目のまだ若い大学です。工学の知識は勿論ですが、単に知識に留まることなく、それをを用いる上で必要となる高い知性や人間性を備えた優れた技術者（エンジニア）や研究者（リサーチャー）を育てることに重きを置いています。

本学は、1学年定員250名、全学でも1200名強という比較的小規模な工学系単科大学ですが、工学部5学科・大学院5専攻を有し、富山県の知の拠点となるべく、地域の課題やニーズに的確に応えるとともに、優れて世界的な研究も展開しており、併せて学生の能力を大きく伸ばす行き届いた教育を行っています。こうしたことにより本学が「地域に貢献する大学」や「就職に強い大学」として高い評価を受けていることは、皆さんよくご存知のことと思います。

本学は、富山県の直接運営から昨年4月の公立大学法人化に伴い、県内産業への人材供給と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、学科拡充計画を進めております。本年4月には、機械システム工学科及び知能デザイン工学科において、教育研究分野の拡充とともに、入学定員を増員しました。来年度も新学科の設置など、両年度で併せて入学定員100名増を予定しています。

こうした大幅な学生定員の増加等に対応するため、新校舎の整備も計画・予定されており、富山県立大学は地域の知の拠点として、ますます発展していくこととなります。

この拡充計画は、石井県知事はじめ、県議会及び関係機関の方々の温かいご

支援の賜物であることは勿論ですが、それを支えるのは、本学に対する県民、県内産業界等の理解と期待であらうと受け止めております。

こうした皆様のご尽力とご期待に応えるため、本学では、数々の行き届いた教育を実践しています。

例えば、1年次の対話型の教養ゼミに始まり、4年次の卒業研究に至るまで、すべての学年で少人数の学生と教員とが触れ合う場を用意しています。さらに、全学年を通して、環境リテラシーを育む環境教育プログラム、そして学生の自立を促すキャリア教育を実施しています。

また、本学では、COC (Center of Community) 教育研究プログラムを実施しています。これは、文部科学省が推進している「地(知)の拠点整備事業」の初年度である平成二五年度に、全国六倍の競争率のなか採択されたプログラムです。本学では、「『工学心』で地域とつながる『地域協働型大学』の構築」を目指し、地域産業の振興や超高齢化社会への対応などの課題について、企業や自治体など地域関係者と連携し学生が自ら主体性をもって具体的な課題を見出し、その解決にむけて努力するという授業に取り組んでいます。

このような場や体系化されたプログラムにより、専門知識だけでなく、それを活用するのに必要となる広い視野やコミュニケーション能力、正解のない問題に取り組んで行く力と使命感などが養われるものと考えています。

さて、学長として私が皆さんにお話できる折角の機会ですので、院生もふくめた皆さんにお願いをしたいと思います。

第一点目は、皆さんは、優れたエンジニア、あるいはリサーチャーになることを志して本学に入学されたことと思いますが、その初心を決して忘れないでいただきたいということです。目標が定まっていなかったり、軸が振れたりしては、何のために大学で勉強しているのか分からなくなり、折角の貴重な4年間なり、2年間を無為に過ごすことになりかねません。

そして第二点目は、その志の実現のため、毎日の学習という一步一步のたゆまぬ努力を惜しまないでいただきたいということです。大学では、「試験前の一夜漬け」などは通用しません。実際、国が定める大学設置基準では、皆さんが、一科目の単位を修得するためには、実際の講義時間に加え、その二倍の時間に相当する自宅等での関連学習を必要である、としていることを、しっかりと覚えておいてください。こうした地道な努力を続けていけば、講義の狙いを的確に把握し、体系的にものごとを捉え、より具体的な課題を認識することができるようになり、また、その過程で獲得された知識が集積され、さらに、クリティカル・シンキング (critical thinking=批判的思考) する力が養われるものと確信しています。

第三点目は、皆さんには、是非4年間、院生の方は今後更に2年間、グローバルな自分自身の目標を是非持っていただきたいのです。そして、それを地道な努力により達成し、達成感を味わっていただきたいのです。

本日は、例として、私の3年先輩の話をしませう。私の先輩は入学時に「卒業

記念にドイツに行こう」と思ったそうです。そこで、4年間、NHK ラジオのドイツ語講座で勉強したそうです。私もその効果に興味を持ったものですから、その効果を聞いたところ、本人曰く「かなりなレベルまで到達した」そうです。事実、ドイツに行き、かなりな局面をドイツ語で通したそうです。ただし、卒業後、就職し、油断してドイツ語を勉強しなくなったら、3年ですっかり忘れたそうです。この話は、継続的な努力がいかに大事かということを示していると思います。

継続的な努力といえば、世界的なプリマバレリーナ、森下洋子さんに有名な言葉があります。稽古を一日たりとも休んではならないという戒めの言葉です。それは、「一日休むと自分にわかり、2日休むと仲間にわかり、3日休むと観客にわかる」というものです。森下さんは、還暦を過ぎた今も、一日5～6時間は、稽古に当てているそうです。是非、皆さんも参考にしてほしいと思います。

さて、大学生活においては、同郷だけでなく全国から集った学友や、同じ目標を持つ多くの学友と生活を共にしたり、教職員と触れ合う機会も多くと思います。また、逆に意見の異なる人といろいろな協議や折衝を行って、自分の考えを理解してもらったり、逆に自分の考えを整理しなおしたりすることもあるかと思います。このような他人との交流は皆さんの大学生活を豊かで充実したものにしてくれるばかりでなく、皆さんを人間的にも成長させてくれることと思います。こうしたことも、大学生活で得られる大事な機会であり、皆さんの今後の人生にとっての貴重な財産、宝物となるものと信じています。

皆さんの前途にはたくさんのやりがいのある仕事が待っています。皆さんの将来には明るいものがあります。初心を忘れず、将来優れたエンジニアやリサーチャーとして社会に積極的に貢献するという夢や志を持って、これからの大学生活を有意義に送られることを、心から祈念し、式辞といたします。

平成二十八年四月六日（水）

富山県立大学 学長 石塚 勝